

1. タバコ、ダンス

タバコに火を付けるAの影。ゆっくりと一本吸い、揉み消す。
Aの姿を映す。台車やベンチを飛び移りながら踊る。

「戦争は、好き？」

「戦争は嫌いだよ。でも、焼け落ちた街に住むってどんな気持ちかな。雀ゴロかなんかしながらさ」

「泳ぐのは、好き？」

「泳ぐのは嫌いだよ。小さい頃プールで溺れかけたんだ。でも、いつも水に潜るたび、息ができそうな気になるんだ」

「歌は、好き？」

「歌は嫌いだよ。でも時々、1日畑を耕して帰ってきて、街から流れる微かな音楽に耳を澄ます農夫たちのことを考える」

「タバコは、好き？」

「嫌いだよ。僕は夜になるとアディダスのジャージに着替えてセッターを吸いながら詩を書くんだ」

2. コーヒーショップ

『「アイスコーヒーを2つ。グラスが空になったらすぐ注いで」と女は座るなりウェイターに告げた。

「シロップはいらない。ミルクだけ」とお辞儀をするウェイターに付け加える。

コーヒーショップ(僕はカフェとコーヒーショップを呼び分ける仕方を知らない)はがやがやとうるさい。1人で座っているのは女だけだった。

女は喧騒に耳を貸すことなく、カバンをごそごと漁り、そこに頼まれた荷物のあることを確認した。

すぐにコーヒーが女の机に運ばれてきた。』

「ギリシャに行こうと思うんだよ。海兵がセックスするためだけにあるような港の食堂でさ、エスプレッソを飲みながら、小さいカップに入った苦いコーヒーってエスプレッソだったかな、カプチーノだっけ？まあどっちでもいいや。そこで港を出入りする船と人を眺めて一日過ごすのって、すごく楽しそうじゃないかな？それで夜になったら適当なホテルを探してさ、食堂の電話から予約するんだよ。それで、何の話だっけ？ああ、届け物か。これを頼むよ」

アイスコーヒーのグラスに注がれるミルク。執拗にかき混ぜ、一息に飲み干すA。

おかわりも同様に。

立ち上がり店を出ていく。上から俯瞰。それを見つめる他の客(多数)。

3. ツバメの巣

店を出て通りを歩いていくA。道一本ほど空けて平行に追いかけるショット。

30秒ほど歩く。

椅子に座っている1人の男。画面に入る少し前から台詞スタート。

男「昨日までツバメの巣があったんだ。どこに行ったのかな」

男「確かにあったんだ。3匹の雛がいて、1匹は死にかけてた」

Aと男がすれ違う。

男「来年も来るかな。ここで待っているよ」

男を見ずに歩いていくA。

男が画面反対に見切れてカメラ止まる。

4. ぶどうを食べる乞食

川を歩くAを追うカメラ。

道端に座る1人の男。男の前には椀と一房のぶどうが置いてある。

男の前で立ち止まるA。

Aが立ち止まると、男はぶどうを食べ始める。

むせ、えづきながらぶどうを5、6粒食べる。

財布から紙幣を抜き取り、男の前の椀に突っ込むA。

A「道を聞きたいんだけど」

男「道？道は知らないよ。川ならあっちだ。寒くなる前に入れておくといい」

川を指さす男。男の指す方を向き、ゆっくりと振り返るA。

A「白い部屋を探してるんだけど、知らない？」

男「部屋か。四角いものならこの近くにはないよ。反対岸に行かないと」

A「反対ね。ありがとう」

立ち上がり歩き出そうとするA。立ち止まり、椀から紙幣を抜いて代わりに硬貨を入れる。

男「助かるよ。ありがとう。ちょうどつぎのぶどうを買いに行かなきゃと思ってたんだ」

振り返らず歩くA。

5.橋を渡る

橋を渡るA。前からそれを捉えるカメラ。

渡り切る直前に1人の女がAに声をかける。

女「止まって。向こう岸から来たの」

黙ってうなずくA。

女「良くないわね。どうして来たの」

A「人に会いに。物を届けに行くの」

女「そう。良くないわね。この街にある物の量は厳密に管理されているの。あなたが何かを届けるなら、その分街から何か運び出さないといけないの」

A「大した量じゃないわ」

女「それは問題じゃないわ。常に管理されて、一定であることが大事なの」

A「そう、じゃあいいわ。会ってそう伝えてくる。」

鞆を地面に降ろし、歩き出すA。

女「あなたが帰るまで預かっておくわ。この橋の外側で」

振り返らず手を振るA。

6.白い部屋

部屋に入るA。部屋の真ん中には1人の女がいる。

女の隣に腰を下ろすA。

女「やあ、暑いね。頼んでいた物はどこかな」

A「橋で止められて」

手をあげて何も持っていないことを示すA。

女「そうだった。忘れていたよ。そこにある本を2冊ばかり持って行ってよ。それで足りるはずだから」

A「そうするわ。ねえ、この街では煙草も吸えないの？」

女「見つからなければ大丈夫だよ。実際街から少しずつ物はなくなっている」

A「そう。残念ね」

女「そうでもないよ。何が残っていくのかを考えるのはとても楽しい」

しばらくの沈黙。

A「もう行くわ。また今度届けに来る」

女「いや、もういいよ。君が持っておいでくれ」

A「そう、わかったわ」

歩き出すA。Aを呼び止める女

女「忘れ物だよ」
本を指さす女。
無言で本を手に取り部屋を出るA。ライターの音。

7. 青空

青空。雲をアップで映す。
男「いい天気だね」
カメラが下に振れる。
男「そろそろ行くのかい」
A「うん」
立ち上がり、画面をゆっくりと出る。